

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの未来と安全が第一に守られ、気力・体力そしてチャレンジ意欲を有する自立した生徒集団が、規範意識や公共の精神を尊重しつつ、学校力（学校がもつ総合的な力）を高めていく学校。

- 1・生徒の自主性を育て、自ら判断し、行動でき、段取りする力をつける。
- 2・自尊感情を育て、他の人を大切にできる心豊かな生徒集団をつくる。
- 3・保護者や地域の皆さんの期待と支援に実績で応える。

2 中期的目標

1、確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、確かな学力の育成のため、「わかる授業、伸ばす授業」への授業改善をめざす

- ア 生徒が個々の将来像に基づいた学習計画を設定できるよう、選択科目の精選と充実を図るとともに、目標達成を支援する教科特別講習を充実させる。
- ※ 平成 28 年度までに生徒が希望する各方面への進路実現に資する選択科目をグループ化・ユニット化して示せる、無理や無駄のないカリキュラムを再構築する。
- イ ICT 機器やネットワーク環境を充実させ、ICT を活用した授業の実施を推進・拡大する。
- ※ 平成 28 年度には 30% 以上の教員が ICT を活用した授業を実施できるようにする（平成 25 年度 20%）。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度に対する肯定的回答を、平成 28 年度には 85% にする（平成 25 年度 72%）。

2、すべての生徒の夢と志を継続させる

(1) 広い意味でのキャリア教育、人権教育の観点を取り入れた進路指導計画を作成し、学校全体の指導の柱にする。

- ア 現状の学年毎の計画から高校 3 年間を見通した計画へと整理し、さらに大学等への進学後のキャリア状況も織り込んだロードマップを作成する。
- ※ 卒業生の進学後の追跡調査を実施し、その分析結果を反映させた進路指導資料を作成する。それを活用することで、学校教育自己診断のキャリア教育に関する肯定率を平成 28 年度までに 85% 以上にする（平成 25 年度 74%）。
- イ 学習面を危惧することなく部活動ができる仕組みや環境の整備を続ける。
- ※ 平成 26 年度以降も、部活動加入率 90% を維持し、生徒向け学校教育自己診断等での学習と部活動の両立に対する肯定的評価を平成 28 年度には 80% 以上にする（平成 25 年度 64%）。

(2) 地域貢献・地域連携を通じて生徒に自己有用感をもたせ、地域の教育力向上にも貢献する取組みを実施する。

- ア 近隣施設や小中学校と連携した事業を行うとともに、保護者の人材・地域の人材を積極的に取り入れた取組みを実施する。
- ※平成 28 年度までに合計 2 件以上の新規取組みを設定する。
- イ EFHS の取組みをベースとした、将来につながる教育の推進を行う。
- ※平成 28 年度までに、のべ 10 名以上の生徒が地域連携によるグローバルな人材育成に関わる事業へ参加できるようにする（平成 25 年度 3 名）。

3、生徒理解の促進と相談体制の充実

(1) 生徒を把握し緊密な人間関係を構築するため、個別の指導・相談体制を整備する。

- ア 「生徒への理解を深める」を基本テーマに教職員研修の内容を精選し、教職員のカウンセリングマインドの醸成をめざす。
- ※ 相談室・保健室での相談以外に、多様な課題について生徒が相談できる機会を提供し、平成 28 年度までにチャンネル数を 2 つ以上増加させる。
- イ 生徒会活動を積極的に支援し、生徒からの情報発信によって「自らが考え行動できる牧野高校生」を育成する。
- ※ 生徒会活動・学校行事への肯定的評価を平成 28 年度までに 90% 以上に向上させる（平成 25 年度 84%）。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <p>・授業に関して、進度・内容に満足している生徒が 74% となり 3 ポイント向上した。保護者も 74% が肯定している。進路関係の講習・補習が適切であるとする生徒は 55% にとどまった。保護者は 75% が肯定的回答であることから、保護者の期待にこたえられてはいるが、当事者の生徒にとってはまだまだ課題があると思われる。自宅学習時間が 2 時間を超える生徒は 38% で、高校で求められる学習量を確保できている生徒は少ない。部活動加入率が 90% であることを踏まえて、部活動と学習を両立できる方策（教職員の 44% ができていないと考えている）を研究する必要がある。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>・生徒の学校への満足度は依然として高い(94%)。</p> <p>・生活指導についても、適切だと考えている生徒が多い(85%で 2 ポイント増加)。保護者も、生徒と同様の傾向で、学校に対する満足度は高い(生活指導については約 92% が肯定的)。保護者の教育に対する意識は高い。</p> <p>・人権教育について、生徒(84%)・保護者(86%)ともに評価は高い。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・教職員の 72% が生徒・保護者の願いによく答えていると考えている。生徒健康管理について、教職員の 92% が適切であるとしているのに対し、保護者は 82% と、10 ポイントの開きがある。このギャップを埋めることが今後の課題である。</p> <p>・PTA 活動が活発であるとする保護者は昨年同様 88% にのぼり、安定かつ充実していると思われる。</p>	<p><第 1 回> 平成 26 年 7 月 4 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学先を国公立大学に特化するだけでなく、本人の特性を生かし、科目を絞って関関同立をめざす方法もある。 ・牧野高校を卒業して、どう伸びていっているのか追跡が必要である。人脈は大切であり、同窓会の結びつきを生かしていただきたい。 <p><第 2 回> 平成 26 年 11 月 10 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の効果的な活用を進め、生徒も活用できるようにしていただきたい。 ・自転車事故が多い。保護者の管理監督責任も問われる。保護者への意識付けが必要である。 ・家庭学習について、反転授業なども効果がある。 ・バランスのとれた人材育成をお願いしたい。 <p><第 3 回> 平成 27 年 1 月 26 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生に災害時の自助共助の担い手としての自覚など、地域貢献への意識付けをしていただきたい。 ・一生涯続ける方策を考え、社会的なスキルを伸ばすように学べる学校であっていただきたい。 ・地域・保護者に対し、学校の発信をより積極的かつタイムリーなものとして進めていただきたい。 ・生徒や保護者の満足度が高い学校であるので、楽な方向に生徒を逃さず、家庭や学校での日々の学習と、生徒の満足感・充実感をマッチさせるように。そこから新しい伝統、丸いけれどとがった部分が出てくればよい。 ・創立 40 周年を機に、牧野高校の新たな伝統を作りあげていただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業、伸ばす授業」への授業改善をめざす。</p> <p>ア 選択科目の精選を図るとともに、教科特別講習を充実。</p> <p>イ 校内ネットワーク環境を充実させ、ICTを活用した授業の実施を推進。</p> <p>ウ 授業アンケートを活用した授業改善の推進。</p>	<p>ア・基本問題検討委員会、カリキュラム委員会等で現行カリキュラムに検討を加え、生徒の進路実態に即した観点から、選択科目の精選・充実化を行い、ユニット化のモデルを作る。</p> <p>・各教科で時宜に応じた特別講習と生徒個々に応じた特別指導を実施し、生徒の進路実現を支援する。</p> <p>イ・学校のネットワーク環境の整備を進めるとともに、ソフトウェア資源をいっそう充実させる。</p> <p>・ICTを活用した授業実施を各教科でも推進できるよう、ICTを活用した授業を校内公開とし、ICTスキルの高い教員の育成に努める。</p> <p>・文系に偏りがちな大学進学状況（平成24年度大学のべ合格者のうち理系学部合格者は199/719名）をバランスのとれた形にするため、理系（特に情報工学や医療系）に興味関心を持つ生徒のための補習や説明会を開催する。</p> <p>ウ・授業アンケート（7月、12月）の1回目課題を把握し、2回目を検証と位置づけて授業改善を推進する。</p>	<p>ア・国公立大学合格者数を30名に、関西大学・同志社大学・立命館大学・関西学院大学等の私立大学進学者数合計80名以上を維持。（平成24年度国公立23名/10学級、平成24年度上記私立大進学者85名）</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果におけるICT関連項目での満足度70%以上（平成26年度に項目新設）</p> <p>・ICTを活用した公開授業の参加率を40%以上にする（平成25年度30%）。</p> <p>・理系合格者の比率を30%以上に（平成24年度27%）。</p> <p>ウ・2回目の授業アンケート結果における、授業による知識・技能向上の評価値平均を3.1以上にする。（平成25年度3.0）</p>	<p>ア・国公立合格者数は13名にとどまったが、関西大学・同志社大学・立命館大学・関西学院大学の現役合格者進学実数は83名であった。従って進学者数も概ね目標を達成できたと考えられる。</p> <p>次年度は国公立大学進学への道を拓くためにも、センター試験受験者が増えるよう、生徒の意識高揚に取組みたい。また、私立大学については、本校生に人気のある近畿大学についても主たる目標大学に加えて学習に取組みたい。（○）</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果におけるICT関連項目での肯定的回答は52%にとどまった。次年度は教員も生徒も活用しやすいタブレット型PCの導入を進め、ソフトウェア資源の充実に努めたい（△）</p> <p>・ICTを活用した公開授業の参加率は32%であった（△）。</p> <p>・理系合格者の比率は32%以上に。次年度は文理選択を迷う境界域にいる生徒に、理系の中でも現代の高校生には比較的ハードルの低い分野であるICT関連資格やプログラミング・ロボット工学方面に対する興味関心の醸成を図るため、教材の整備を進めたい。（○）</p> <p>ウ・2回目の授業アンケート結果における、授業による知識・技能向上の評価値平均は3.12であった。授業改善にさらに熱意を持って取り組むよう職員の意識向上を図りたい。（○）</p>
2 すべての生徒の夢と志を継続させる	<p>(1) キャリア教育の観点を含む進路指導を実施。</p> <p>ア 大学等進学後のキャリアも織り込んだ指導の実施。</p> <p>イ 学習面を危惧することなく部活動ができる仕組みを整備する。</p> <p>(2) 地域連携を通じて生徒に自己有用感を持たせ、地域の教育力向上にも貢献する。</p> <p>ウ 近隣諸学校・施設との連携事業や、地域人材を活用した取組みを実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・本校卒業生が大学等を卒業後、どのように社会で自己実現しているかを追跡把握し、進路指導に活用するとともに、中学生向け学校説明会等の広報活動においても、中学生・保護者にフィードバックする。</p> <p>・キャリア教育に関する校内外の研修参加・研鑽を推奨し、ビジョンを持って指導にあたることのできる教員の層を厚くする。</p> <p>イ・部活動に参加する生徒が、土曜や放課後に学校で自主学習できる仕組みを整備する。</p> <p>・部活動に加えて学習面等でプラスαの成果をあげた生徒に自己の達成内容の記録を提出させ、「文武両道」達成生徒としての顕彰機会を設ける。</p> <p>(2)</p> <p>ウ・従来のEFHSの取組みで始めた近隣小中学校との交流・連携を拡大する。</p> <p>・支援学校や施設との交流事業に参加する生徒を増やし、実際の体験から自己有用感を得させる。</p> <p>・さまざまなチャンネルによる情報発信を通じて学校のイメージアップを図り、生徒の帰属意識が自己有用感に繋がる道筋を作る。</p> <p>・創立40周年記念事業を契機とした対地域イメージアップの実現。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の学校教育自己診断結果におけるキャリア教育関連の項目での肯定率80%をめざす（平成25年度は74%）とともに各種研修参加のべ人数を15人以上にする（平成25年度9人）。</p> <p>イ・1日あたりの自主学習参加者平均10人以上。</p> <p>・初年度生徒顕彰者数10名以上をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ウ・小中学校との英語による連携事業継続と対象校を中学校2校、小学校1校からさらに1校拡大。</p> <p>・地域人材・団体や保護者を活用した生徒対象の講演・体験学習等の取組みを2回以上実施。</p> <p>・中学生向け学校説明会等でのアンケート調査で40周年関連取組みの認知度60%以上をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の学校教育自己診断結果におけるキャリア教育関連の項目での肯定率は86%であった。次年度もこの状態を継続したい。（○）</p> <p>・各種研修参加のべ人数は16人。次年度は教職員・PTAが参加するキャリア教育の校内研修会を開催して、家庭の支援も得られるようにしたい。（○）</p> <p>イ・1日あたりの自主学習参加者平均20人。次年度は参加者が固定しないよう、幅広く利用の呼びかけをしたい。（○）</p> <p>・初年度生徒顕彰者数3名。次年度は募集期間を複数回設け、人数増加につなげたい。（△）</p> <p>(2)</p> <p>ウ・国際交流や英語を軸とした連携チャンネルに関西外国語大学・殿山第二小学校・枚方青年会議所の3つが加わり、交流を拡大できた。次年度は回数の増加など、充実に努めたい。（◎）</p> <p>・枚方青年会議所と連携した、夏期2回のグローバル体験学習に本校生徒が参加した。次年度は協力して下さる地域人材の幅を広げたい。（○）</p> <p>・中学生向け学校説明会等でのアンケート調査で40周年関連取組みの認知度23%。次年度は当該年度なので60%という目標を達成したい。（△）</p>
3 生徒理解の促進と相談体制の充実	<p>(1) 生徒を把握し緊密な人間関係を構築するため、個別の指導・相談機能を強化する。</p> <p>ア 「生徒への理解を深める」ための教職員研修を精選実施し、カウンセリングマインドの醸成をめざす。</p> <p>イ 生徒会活動等を積極的に支援し、生徒からの情報発信によって「自らが考え行動できる牧野高校生」を育成する。</p>	<p>ア・教職員のカウンセリングマインド醸成に資する校内・校外研修への参加を奨励する。</p> <p>・校内研修については、学校保健会や人権研修等を有機的に連携させ、精選したものにする。</p> <p>・医療機関以外の外部のサポート機関と連携するなど、生徒支援に積極的に外部専門家を活用する。</p> <p>イ・創立40周年を機に、行事の精選・充実を図る。</p> <p>・記念事業の企画・立案・準備等のプロセスに積極的に生徒の参加を呼びかけ、節目となる事業に関する過程を生徒自身に情報発信させ、次の生徒参加への連鎖を形成するようにさせる。</p>	<p>ア・個の支援やカウンセリングに関する校内外研修等への参加者のべ数を15人以上にする（平成25年度10人）。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断結果における教育相談への肯定率70%以上。（平成25年度67%）</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における学校行事に対する肯定率90%以上を維持（平成25年度92%）</p> <p>・創立40周年記念事業関連の会議・ミーティング等への参加生徒数のべ100名以上。</p>	<p>ア・個の支援やカウンセリングに関する校内外研修等への参加者のべ数53人。十分な数になったが、次年度は研修内容の種類も増やしたい。（◎）</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断結果における教育相談への肯定率75%。次年度はSCの配置状況が変わるが、肯定率を今年度並みに維持したい。（○）</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における体育祭・文化祭に対する肯定率はいずれも90%以上であった。次年度は生徒会執行部に対する支援を今年度以上に充実させ、高い肯定率を維持したい。（○）</p> <p>・創立40周年記念事業会場の確定が遅れ、日程を明確にできず、関連の生徒向けミーティングも開催設定ができなかった。次年度は事業実施当該年度なので、準備を万全にし、今年度設定した目標を達成したい。（△）</p>